

林業と向き合って

常陸大宮市森林組合
木村 聡 志

私は、自然の中で働く林業に興味

を持ち、緑の雇用研修に参加しました。そこでは、講師の方々から、林業に関する基礎を学びました。日々の現場作業の中で、学んだ基礎が自分のスキルアップにつながっており、とても感謝しています。大変なこともあります。今日まで仕事を続けることができています。

元々、体力に自信があって入組したのですが、慣れない作業が多く、初めて経験することがほとんどでした。その中でも、刃物が付いた道具の取り扱いや、木にかかわる作業は、いずれも経験したことがなく、初めは林業という現場のスケールの大きさに驚きました。危険が伴う林業だからこそ、本気で向き合い、今では、どんな作業も安全確認をし、的確に行うことを心がけています。

そんな私は、造林班に属し、杉や

檜の植え付け、下刈り、チェーンソーを使った集積間伐などの作業をしています。私が今まで特に頑張ってきたことは、下刈りです。とても暑く、大変な仕事ですが、研修で教わった刈払い機の刃の目立てを怠らず、苗木の位置や刈り幅を意識して作業に取り組んできました。下刈りは、苗木の生育に欠かせないため、これからも頑張りたい作業です。

また、昨年、研修で重機の資格を取得してからは、基本的な操作を現場で学んでいます。丸太の運搬・はい積み・点検管理も少しずつできるようになってきました。

林業は奥深く、まだ分からないことがたくさんあります。今後の課題として、造林作業だけでなく、重機を用いた作業の流れもよく把握して、無駄を省き、能率を上げる努力をしながら、仕事に対する意識を高めていきたいです。

